

畜産業における建築物、構築物を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	13~14	かくはん機のメンテナンスを行う為、グリスとグリスガンを手に持ち、脚立で側壁に上がり、棧づたいに移動中にバランスを崩し約2mの高さから墜落した。ヘルメットは着用していたが、安全帯はしていなかった。	41	30~49
2	9~10	原卵受入口のプラットホームで上のコンテナ搬送ベルトを見上げていたところ、下に注意が行かず90cm程度の高さから地面に飛び降りた。当初はくじいた程度と考え掛かりつけの整骨院に行ったが診断がつかないため病院に行くように指示され、通院したところ足の骨折であった。当日は晴れ、気温はプラスであった。凍結はしていなかった。	38	50~99
3	13~14	豚の移動作業に従事中（豚を豚舎から出す直前）、豚が逃走しないように逃走用のビニールシート（1m×20m）を3人で持ち、シートが風でめくれぬようシートの下を踏みつけて立っていたとき、前からの突風に煽られ、右端に立っていた被災者が転倒し、右手をついて負傷した。	61	30~49
5	14~15	農場鶏舎内にて餌といの中のを均す作業をしていた時、足を乗せていた4段式ケージの2段目餌とい（高さ約50cm）から地上に降りる際に左足首を負傷した。	51	1~9
6	16~17	豚舎の天井裏を通り、豚房内の給餌器に飼料を搬送するドロップパイプの緩みに気づき、修理のため豚房柵に足をかけ、上り口より天井裏に上り、緩みを締め直した。修理が終わり下に降りようと豚房柵に足を掛けた際、足を滑らせ豚房柵の上部に股間から尾てい骨にかけ強打した。	44	10~29
6	8~9	肥育豚舎D号棟において豚の出荷作業中、豚房柵が倒れてきて、左足甲を強打し負傷した。（豚房柵を固定している鉄製の支柱一部が腐食していた為と思われる）	39	10~

		る。)		29
6	10~11	堆肥の成分によって腐食が進むため、年に1~2回行う点検の際、桶の腐朽箇所を見つけ、新しい桶で補強しようと腐朽部分を強く引っぱった時、そのショックが左肩に来て激痛がはしかったとのことである。違和感がしばらくして消えたため、そのまま仕事を続けたが、後日急にハンドルが握れなくなり手術となった。	75	1~9
7	9~10	作業場にて、貯水タンクの位置調整中に、高さ約8mのタンク上から足を滑らし、地面に落下した。	41	1~9
7	13~14	改修工事後の地下フロア内にて、清掃作業をするにあたり、気温が高いので風通りを良くするため、左右のドアをあけに向かった際、点在する除糞機・設備（高さ30cm程の鉄骨のガード）をこえようとした時、作業着・長靴の着用・室内照明等に瑕庇は無かったが、足下に点在するガードに加え、天井も低く注意が必要なことと、休息前の準備作業のためか注意力が不足しており、ガードの高さの目算を誤り、足をつまずかせ転倒。左顔面・手首等を除糞設備の鉄骨等に強打し、打撲・骨折等のケガをした。	60	10~29
7	15~16	牧草を育てるための畑を購入し、畑に置かれていた材木を撤去する作業の補助をしていた。運び出しやすいように、等間隔に置いた材木の間を移動中、よそ見をして足元が疎かになり、畑の横の側溝（幅約1.5m、深さ1.5m）に転落した。落ちた際に側溝の床に手を着いてしまい、左手首を骨折する負傷をした。	50	1~9
10	16~17	豚舎糞尿ピット0パイプ掃除中に豚舎屋外ピット（幅1m、高さ1.2m、長さ60m、コンクリート製）を飛び越えようとした時、誤って転落し、ピット線に左骨盤部を強打し骨折したもの。	35	1~9
10	9~10	鶏の出荷作業をしていた。鶏舎の中に鶏の移動用ラックを搬入していたところ、長靴を履いた足が側溝にはまったが重量のあるラックは先に進んでしまい、足が捻った状態となり関節を痛めるとともに、小指の骨を折ってしまう。	23	100~299

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html

